

平成18年第1回 ExTEND2005 野生生物の生物学的知見検討会 議事要旨

日時：平成18年5月19日（火）17：00～19：00

場所：環境省中央合同庁舎5号館 22階 第1会議室

出席委員：岩松 鷹司、倉本 満、椿 宜高、端 憲二、村田 幸雄、渡邊 信(座長)

出席者（敬称略）

研究班員：花里 孝幸、須之部友基、濱口 哲

オブザーバー：川嶋 之雄

事務局：上家環境安全課長他

議題：

- 1 平成18年度 ExTEND2005 野生生物の生物学的知見研究課題について
- 2 その他

議事要旨

- (1) 平成18年度研究課題として、「課題1．野生状態における魚類の雌雄同体現象に関する研究」「課題2．沿岸域を中心とした湖沼生態系攪乱の実態と、そのメカニズムの解明」「課題3．野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析」が提案され、この内容について各研究代表者が発表を行い、審議が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・個体の異常を集団として見たときに、それが自然の揺らぎの範囲にあるのか、それともそれを超して何かの原因があるか、外的因子というのは絡んでいるか、その辺が見分けられるようなところがまず非常に重要かと思う。
- ・野外で見ていると、可能な要因があり過ぎて、何が原因なのかがわからないというのが問題。実験的に確かめるといのは要因を設定しとして、その影響があるかどうかを見るということだが、実験室と野外をつなぐ方法が不明確。
- ・統計学者の援助が要るのではないか。集団の数がどれだけ必要なのか、集団の中でのサンプルサイズがどれだけいるのかといった、実験計画をもう少し練った方がよいのではないか。
- ・遺伝的バックグラウンドが異なる野外集団で感受性が異なるので、外因による異常現象の集団間の比較は難しいのではないか。

- (2) 平成18年度生態系を理解するための野生生物の知見全国大会（仮称）の開催について報告された。

以 上